


けやき

令和4年

4月

さいたま市立 大宮北小学校 学校だより

305のよさを見つめて

校長 渡辺 明

卒業式の前後は少し冷え込みましたが、その後は日々春らしさを増し、暖かな陽射しを感じる時期になりました。55名の新入学児童を迎え、305名の児童と42名の教職員での新たなスタートです。大宮北小の素直な子どもたちと、また一緒に進んでいけることは本当に嬉しいことです。「未来を拓き、心豊かにたくましく生きる力を育む」という学校教育目標を胸に、こどもたちのよさに目を向けた教育活動に努めてまいります。

卒業式の頃の桜はつぼみが膨らみ、ちらほらと開きかけの花がある程度でしたが、その後一気に開花が進み、残念ながら入学式までにかなり散ってしまいました。満開の期間が短い儚さも桜の魅力かもしれませんが、できることならば卒業式から入学式まで、子どもたちの思い出を彩る花であってほしいと思います。

桜といえば、中学校の国語の教科書に、染色家の志村ふくみさんの話をテーマにした、大岡信さんのエッセイがあります。桜を染色の素材として用いるとき、きれいな花びらではなく、樹皮を使うという話です。黒い樹皮から美しい桜色の染め物が出来上がる、それは桜がその全身で春の美しい桜色を創り出そうとしているから、という内容です。

子どもたちも、まだ幼い毎日の行動の中で、大人から見ると論理的でないところがあったり、当たり前のように失敗したりします。けれども、その内面には、子どもなりの理屈やこだわりがあって、それらもひっくるめて、全身で大人になろうとしているように感じます。表面的なものだけでなく、その心の中を感じ取りながら育てていければよいのですが、それはなかなか難しいことです。こどものよさをしっかり捉えながら支援していくためには、多くの目で見守ることが欠かせません。また、それは一緒に成長の喜びを感じるということでもあります。

学校運営協議会の実施一年目でもあります。今年度も地域の皆様、保護者の皆様のあたたかなご理解・ご支援のほどよろしく願いいたします。



校舎北側の桜 (R4.3.31)

<学校経営方針>

- 1 よさを見つけ、認め、伸ばすことで、児童一人ひとりが達成感を味わえる教育活動を展開する。
- 2 教師の指導力の向上を図り、「アクティブ・ラーニング」の視点で、学び方が身につく授業実践に取り組む。
- 3 道徳教育・教育相談・特別支援教育等の取組から日常の指導と人間関係づくりに努め、心豊かな児童の育成を図る。
- 4 安心・安全で美しく整えられた教育環境づくりと、セーフコミュニティの取組を通じた「自助・共助」の意識の育成を図る。
- 5 コミュニティ・スクールの取組を通じて、学校・家庭・地域の連携・協働を深め、「オール大宮北小」の具現化を図る。

<目指す児童像>

- ◇進んで学ぶ子 ・教師の話をよく聴く。 ・わかるまで、できるまで努力する。
- ◇思いやりのある子 ・共に協力し、感謝の気持ちをもつ。 ・いじめや差別をしない、させない。
- ◇明るく元気な子 ・心のこもった挨拶ができる。 ・具体的なめあてにチャレンジできる。